

スマートICフルインター化 アンケート結果と進捗状況

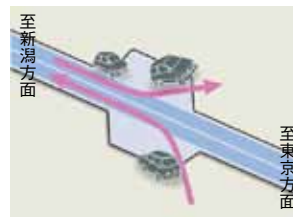
三芳スマートICのフルインター化整備の参考とするため、平成26年2月1日から2月21日まで三芳町に住民登録されている18歳以上の男女を対象に、スマートインターチェンジに関する意識調査のアンケートを行いました（有効回答数1445通、回答率48.2%）。その結果や今後の展望と進捗状況を紹介いたします。

図 政策推進室 内線 422

今と何が変わるの？

関越自動車道をどちらの方面へも出入りができ、利用車種が増え、より利便性が向上します。

ハーフ運用（現在）



利用可能方面

新潟方面への入り口（下り線）
新潟方面からの出口（上り線）

利用車種

普通車までの制限

フルインター化（整備後）



利用可能方面

新潟・東京方面

利用車種

12m以内（観光バス・トラック等まで）※トレーラーは不可

国への要望活動

現在のハーフ運用から、フル化に変更するには、国の許可が必要で、整備にあたり高速道路からICの料金所までは国とNEXCOが事業費を負担します。国には多くの地域からスマートICの整備要望が寄せられているため、単純に利便性の拡大だけでなく、地域活性化や災害時の役割など、地域にとって有益で必要とされているかが国が許可を判断するうえで厳しく審査されます。町では検討の実現性を高めるため、国土交通大臣にフル化、車種拡大の早期実現と関連予算の拡充について要望書を5月21日に提出しました。



国土交通大臣に要望書を提出。

署名を国土交通大臣に提出

町内の企業や市民団体を中心とし、スマートICのフルインター化、車種拡大、周辺道路整備に向けた活動を展開するため、スマートICフル化等促進会議が立ち上がりました。この会議が主体となり、実現に向けた署名活動が展開され、26,335人分の署名が集まり、太田昭宏・国土交通大臣に提出しました。



集まった署名は26,335人分におよんだ。

提出した町の要望書



国土交通大臣に署名を提出。

国へ要望・署名提出 課題と対応策

国土交通省に出向き、町からは要望書を、町内企業や市民団体からは26,335人分の署名を直接国土交通大臣に提出するなどフルインターチェンジ化に向けた取り組みが進んでいます。

課題と対応策

- 周辺道路整備…どのように交通流動が変化するかを予測し、安全対策を実施。主に周辺道路の主要交差点の拡張、アクセス道路の歩道設置を検討しています。
- 誘導案内…看板設置や交通規制により交通の流れを誘導するため、計画的な誘導案内を実施していきます。
- 将来構想…第4次総合振興計画を見直し、周辺地域の土地利用方針（みどり共生産業ゾーン）を変更。その実現に向けた取り組みが始まっています。（仮称）バザール賑わい公園など、その構想についても検討していくこととしています。
- 費用対効果…町の支出としては、フル化整備ではスマートIC整備よりも周辺道路整備に多額の費用を投資することが想定されます。スマートIC整備に関連付け、国交付金を活用しながら実現していきます。費用負担の低減に努め、費用効果では周辺整備が進む中で、企業立地等による税収効果などが期待されています。

周辺道路の整備予定エリア

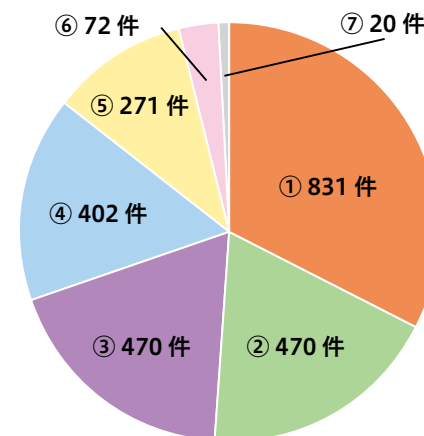


スマートICとは？

今まで高速道路の通過地点となっていた地域の活性化のため、国が進めている簡易なETC専用インターチェンジのことを言います。三芳スマートICは、平成18年10月に恒久化が実現。いかに簡易な整備で実現するかを社会実験したため、車種制限のあるハーフ運用（出入り方向限定）としてスタートしました。



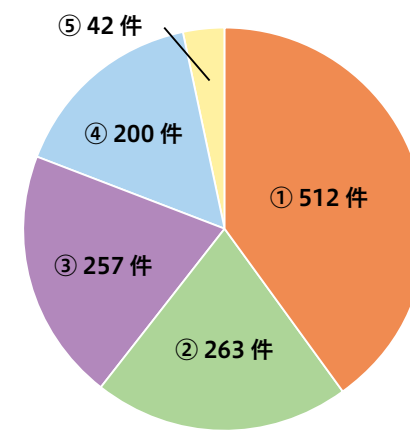
フル化にどのような効果を期待しますか？（複数回答可）



- ①東京方面へのアクセスによる利便性向上（32.8%）②地域産業の活性化（18.5%）③周辺道路の交通状況の改善（渋滞解消、交通事故の減少）④災害時の支援車両、緊急車両の通行⑤観光施設の利用促進⑥特になし⑦その他

フル化整備に期待する効果では、『東京方面へのアクセス』が最も多い結果となりました。また、『地域産業の活性化』と『周辺道路の交通状況の改善』という回答も多く、こうした整備効果を実現させる周辺整備を進めていく必要があります。

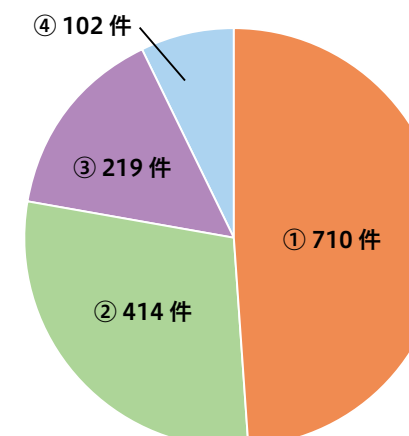
右グラフ内①要件の具体的な内容



- ①周辺道路における安全対策の実施（40.2%）②周辺地域の将来構想検討※観光、産業、森林保全等（20.6%）③誘導案内の実施※案内看板設置、交通誘導（20.2%）④費用対効果（15.7%）⑤その他（3.3%）

『周辺道路における安全対策の実施』が40%を超えました。フル化整備を検討するなかで、こうした課題を解消するために、その対策も同時に進めていく必要があります。

フル化整備について実現したほうがよいですか？



- ①要件が整えば、実現したほうがよい（49.1%）②フル化整備は実現したほうがよい（28.7%）③現状のハーフ運用のままでよい（15.2%）④無回答（7.1%）

『要件が整えば』という回答も含め77.8%の人が「実現したほうがよい」という結果に。フル化整備の実現に対する考え方を確認することができると同時に、整備を進める際に取り組みなければならない課題も確認することができます。（左グラフ参照）